

ダニエル書 - 第二十九番

ベルシャツアルの酒宴と預言の時：日曜令、バビロンの陥落、そして最後の危機を明らかにする

Jeff Pippenger

2023-12-24

ベルシャツアルの宴は日曜法の「時」を明らかにするが、その強調点は共和主義の角に対する審判に置かれている。ダニエル書3章のネブカドネツアルの金の像は、同じ歴史を、やがて旗印として高く掲げられる神に忠実な民という文脈で描いている。ダニエル書6章も同じ筋を扱うが、そこではプロテスタント主義の角の役割が論じられている。ベルシャツアルは「国家」を表しており、彼は自分の「貴族」を千人呼び集めた。

ベルシャツアル王は自分の貴族一千人のために大宴会を催し、その千人の前でぶどう酒を飲んだ。ベルシャツアルは、ぶどう酒を味わっているときに、エルサレムにあった神殿から父ネブカドネツアルが取り出した金や銀の器を持って来るよう命じた。王や貴族たち、妃たち、側女たちがその器で飲むためであった。そこで、エルサレムにある神の家の宮から取り出された金の器が運び込まれ、王も貴族たちも、妃たちも側女たちも、それらで飲んだ。彼らはぶどう酒を飲み、金や銀、青銅、鉄、木、石の神々をほめたたえた。その同じ時、人の手の指が現れて、王宮の壁のしっくいの上、燭台の向かい側に文字を書いた。王は、その書いている手の先を見た。ダニエル書 5:1-5.

数「十」は竜を表し、「百」や「千」はその同じ象徴を拡大したものにすぎない。第六章では、百二十人が欺瞞的な法を押し通し、百二十という数は祭司の象徴である。「行に行を重ねる」という観点から見ると、ベルシャツアルの宴は、墮落した国家運営への裁きと、墮落した教会制度への裁きを描いている。ベルシャツアルはバビロンの酒に酔い、そしてエルサレムにある神の神殿の聖なる器を冒瀆しようと決意した。

預言者は言う。「私は、別の御使いが大いなる権威をもって天から下ってくるのを見た。地はその栄光によって輝いた。彼は力強い大声で叫んだ、『大いなるバビロンは倒れた、倒れた。悪霊どもの住処となった』」（黙示録18:1、2）。これは第二の御使いによって与えられたのと同じメッセージである。バビロンが倒れたのは、「彼女がその淫行の怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませたからである」（黙示録14:8）。そのぶどう酒とは何か。それは彼女の偽りの教理である。彼女は第四戒の安息日の代わりに偽りの安息日を世に与えてきたうえ、サタンがエデンで最初にエバに語った偽り-魂の自然不死-を繰り返してきた。彼女はこれに類する多くの誤りを広く広めてきて、「人間の戒めを教理として教えている」（マタイ15:9）。『Selected Messages』第2巻、118頁。

ベルシャツアルが飲んでいたぶどう酒は、ローマ教皇制の偶像の安息日であった。というのも、その饗宴は日曜法の預言的な「時」を表していたからである。彼が宴会場に持ち込んだ聖所の器物は、神への反逆を表していただけでなく、聖なる器は神の民をも表している。なぜなら、文字どおりのものは霊的なものを表し、人は器であるからだ。

しかし、神の土台は堅固に立っており、次の刻印が押されている。「主はご自分のものを知っておられる。」また、「キリストの名を呼ぶ者は皆、不義から離れよ。」大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあり、尊い用のものもあれば、卑しい用のものもある。だから、もし人がこれらから自分を清めるなら、その人は尊い用の器となり、聖められ、主人に用いられるにふさわしく、あらゆる良いわざのために備えられる。テモテへの手紙第二 2:19-21

日曜礼拝の強制によって神の民を冒瀆しているさなか、炎の文字がベルシャザルの破滅を告げる。

その同じ時、人の手の指が現れ、王宮の壁の漆喰に、燭台の向かいに文字を書いた。王は、書いているその手の一部を見た。すると王の顔色は変わり、思いが彼をかき乱し、腰の関節はゆるみ、膝は互いに打ち合った。王は大声で叫び、占星術師、カルデア人、占い師を連れて来させた。そして王はバビロンの知者たちに言った。「誰でもこの文字を読み、その解き明かしを私に示す者には、緋の衣を着せ、首に金の鎖をかけさせ、王国の第三の支配者とする。」ダニエル書 5:5-7

歴史的には、この箇所はベルシャツアルの父が政治的な王位をベルシャツアルに委ねたことを示していると理解されており、そのため、手書きの文字の解釈に対して息子であるベルシャツアルが与える最高の褒賞は、王国の第三の支配者の位であった。アメリカ合衆国での日曜法制定に至る過程では、新しい礼拝形態の導入に向けて働く宗教的指導層に対し、政治的指導層は従属的な立場に置かれるだろう。獣の像は、教会が関係の主導権を握るかたちでの教会と国家の結合を表しており、日曜法の時点でベルシャツアルは政治上の王、すなわち国家を象徴していたが、父の宗教的権威に対しては第二位にすぎなかった。彼がダニエルに与えられる最高の位は第三の支配者の位でしかなかった。

初代教会が福音の単純さから離れて異教の儀式や慣習を受け入れ、墮落したとき、教会は神の霊と力を失った。そして人々の良心を支配するために、世俗権力の支援を求めた。その結果生まれたのが教皇制であり、国家権力を支配してそれを自らの目的、特に「異端」を処罰するために用いる教会となった。アメリカ合衆国が獣の像を形作るには、宗教的権力が世俗の政府を支配し、国家の権威が教会によっても自らの目的を達成するために用いられるようになることが必要である。...

プロテスタント諸教会による日曜遵守の強制は、教皇権-すなわち獣-の礼拝の強制である。第四戒の要求を理解しながら、真の安息日の代わりに偽りの安息日を守ることを選ぶ者は、それによって、それを唯一命じている権力を崇拝していることになる。しかし、宗教的義務を世俗の権力によって強制するというその行為において、諸教会は自ら獣の像を造ることになる。ゆえに、アメリカ合衆国における日曜遵守の強制は、獣とその像の礼拝の強制となるであろう。『大いなる論争』443、448、449。

危機にこそ品性は明らかになり、壁に記された神秘的なメッセージはベルシャザルの身に危機をもたらし、彼の王国の終焉を画し、こうして地の獣の王国の終わりを象徴した。ベルシャザルはその夜のうちに死に、それは日曜法を表している。日曜法の時、聖書の預言における第六の王国であるアメリカ合衆国は打ち倒されるが、アメリカ合衆国は直ちに十人の王の筆頭となる。十人の王は聖書の預言における第七の王国であり、彼らは直ちにその第七の王国を獣に与えることに同意する。

というのは、神が、彼らの心にご自分の御旨を行わせ、彼らを一致させ、神の御言葉が成就するまで、彼らの王権を獣に渡させるようにされたからである。黙示録 17:17.

最後の動きは速やかであり、第六の王国から第七へ、そして第八へと移行するのもまた迅速である。というのも、その時、世界は大いなる危機のただ中にあるからだ。地の獣の打倒はベルシャツアルを恐れさせ、十人の王の筆頭である彼は、アメリカ合衆国の打倒に際して地上のすべての王が経験する恐れを代表している。黙示録11章では、壁に文字が現れるその「時」は、大地震の「時」である。その時点でイスラムの三つの象徴が印され、終わりの時代に王たちを恐れさせるのはイスラムである。

見よ、王たちは集い、ともに進軍した。彼らはそれを見て驚嘆し、狼狽し、あわてて逃げ去った。その場で彼らは恐れにとらえられ、産みの苦しむ女のような痛みで襲われた。あなたは東風でタルシシュの船を打ち砕く。私たちが聞いていたとおり、万軍の主の都、私たちの神の都で、私たちは見た。神はそれをとこしえに確立される。セラ。詩篇48:4-8.

王侯がベルシャツアルの饗宴に集まり、バビロンのぶどう酒を飲み、神の聖所の聖なる器を手に取り眺めていたとき、恐れが彼らを襲った。これは、壁に文字が現れたときのベルシャツアルの恐怖に象徴されている。ベルシャツアルの恐怖は、産みの苦しみをする女で表される高まっていく恐怖の始まりとなり、黙示録11章の「時」は12章へとつながり、そこでは旗印が出産間近の女として表されている。最初の陣痛は、宴会場の壁に書かれた文字である。その恐れは、イスラムの「東風」、すなわち「タルシシュの船を打ち砕く」ものによって引き起こされる。

ベルシャツアルの宴会の広間では、「千人の貴族」が、バビロンのぶどう酒（それは日曜日の強制を表している）を飲んでいる。そのとき、ベルシャツアルが聖所の装飾品を運び込ませるのに合わせて、ネブカドネザルの楽隊が演奏を始める。ツロの淫婦が歌い始め、背教のイスラエルがネブカドネザルの金の偶像のまわりで踊り始める。だがその宴は、「東風」によって打ち壊される。それは「すぐに来る第三の災い」であり、「第七のラッパ」である。イスラムがその宴に乱入すると、「諸国民は怒る」。彼らが怒るのは、地球の経済構造の象徴であるタルシシュの船が、そのとき海のただ中に沈められるからだ。

タルシシュは、あらゆる種類の富の多さのゆえに、あなたの商人であった。彼らは銀、鉄、錫、鉛をもって、あなたの市で取引した。ヤワン、トバル、メシエクもあなたの商人であった。彼らはあなたの市場で、人の身と青銅の器を取引した。トガルマの者たちは、馬と騎兵とラバをもって、あなたの市で取引した。デダンの人々はあなたの商人であった。多くの島々があなたの手の商いの相手であった。彼らは贈り物として、象牙の角と黒檀をあなたにもたらしした。シリアは、あなたの造る品々の多さのゆえに、あなたの商人であった。彼らはあなたの市で、エメラルド、紫布、刺繍品、上等の亜麻布、珊瑚、めのうを取引した。ユダとイスラエルの地もあなたの商人であった。彼らはあなたの市場で、ミンニトの小麦、パンナグ、蜜、油、香料を取引した。ダマスコは、あなたの造る品々の多さ、すなわちあらゆる富の多さのゆえに、ヘルボンのぶどう酒と白い羊毛であなたの商人であった。ダンもまた、往来するヤワンも、あなたの市で商いをした。磨かれた鉄、カシア、カラムスがあなたの市場にあった。デダンは、戦車用の貴重な衣であなたの商人であった。アラビアとケダルのすべての君た

ちは、子羊、雄羊、やぎであなたと商いをし、これらのものであなたの商人であった。シェバとラアマの商人たちはあなたの商人であった。彼らはあなたの市で、あらゆる香料の最上のもの、すべての宝石、そして金を取引した。ハラ、カンネ、エデン、シェバの商人、アッシュル、キルマドも、あなたの商人であった。これらは、あらゆる種類の品々、青い衣、刺繍品、紐で縛られ杉で作られた豪華な衣服の箱などを、あなたの商品の中で取引する、あなたの商人であった。タルシシュの船は、あなたの市場であなたをたたえ歌った。こうしてあなたは海のただ中で満ち足り、きわめて栄光に輝いた。あなたの漕ぎ手たちはあなたを大水の中へ連れて行った。東風が海のただ中であなたを打ち砕いた。あなたの富、あなたの市、あなたの商品、あなたの船員と操舵手、あなたの船の目止めをする者、あなたの商品を扱う者、あなたのうちにいるすべての戦士、そしてあなたのただ中にあるすべての仲間は、あなたの破滅の日に海のただ中へと倒れ落ちる。エゼキエル書 27:12-26。

「タルシシュの船」は地球の経済構造の象徴であり、それらは「東風」によって海のただ中に沈められる。エゼキエルは、これが「あなたの滅びの日」に起こることを告げており、エゼキエル書第27章の主題はツロに対する哀歌である。

主の言葉が再び私に臨み、こう言われた。「今、人の子よ、ツロのために哀歌を唱えよ。ツロに言え、『海の入り口に位置し、多くの島々の民と交易する商人よ。主なる神はこう仰せられる。ツロよ、お前は「私は完全な美である」と言った。』」エゼキエル書 27:1-3。

ツロの滅びの日は嘆きの主題である。ツロの滅びの日とは日曜法のことである。なぜなら、ツロは教皇制の象徴であり、その裁きは、黙示録18章の第二の聲が人々にバビロンから出て来るよう呼びかけ始めるその「時」に始まるからである。

また、天から別の声を聞いた。「わが民よ、彼女から出て来なさい。彼女の罪にあずからず、彼女の災いを受けないためである。彼女の罪は天にまで積み上がり、神は彼女の不義を覚えておられる。彼女があなたがたに報いたとおりに、彼女に報いよ。そのわざにしたがって彼女に二倍にして返し、彼女が満たした杯には彼女のために二倍を満たせ。彼女がどれほど自分を榮えさせ、ぜいたくに暮らしてきたか、その分だけ彼女に苦しみと悲しみを与えよ。彼女は心のうちで言っている、『私は女王として座し、やもめではなく、悲しみを見ることはない』と。だからこそ、彼女の災いは一日のうちに、死と嘆きと飢饉としてやって来る。彼女はすっかり火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は強いからである。」地の王たちは、彼女と姦淫し、彼女とともにぜいたくに暮らした者たちであるが、彼女が焼かれる煙を見て、彼女のために嘆き悲しむ。彼女の苦しみを恐れて遠くに立ち、こう言う。「ああ、ああ、大いなる都バビロン、力ある都よ。たった一時間のうちにあなたのさばきが来た。」また地の商人たちも彼女のために泣き悲しむ。もはやだれも彼らの商品を買わないからである。黙示録 18:4-11

ダニエル書で「時」として五回用いられている語は、常に何らかの審判を表している。その審判の種類は、それが用いられている箇所や文脈によって定まる。ダニエル書4章では、「時」という語はまず、審判の到来を告げ知らせるために用いられている。それが1844年10月22日に始まった調査審判であれ、日曜法で始まる執行審判であれ、である。いずれ

の場合も、調査審判も執行審判も漸進的である。教皇制の執行審判は、アメリカ合衆国における日曜法の時に始まる。それが、教皇制の執行審判が始まる「時」を示すものであり、またその「時」は、黙示録11章の大地震の「時」でもある。そのとき、二人の証人はシャデラク、メシャク、アベデネゴによって表され、エゼキエルの強大な軍勢が掲げる旗印として、炉に投げ込まれる。その「時」はまた、ベルシャザルの壁に手による文字が現れる時である。

「タルシシュの船」は、地球の経済サプライラインの構造を象徴しているが、その時それらは海のただ中に沈み、そのため地の商人と王たちは、ベルシャザルに象徴されるように、恐れおののく。

黙示録11章では、「時」とは、イスラムの「第三のわざわい」が速やかに到来し、第七のラッパが吹き鳴らされ、諸国の民が怒る時を指す。これら三つの象徴はすべて、まさにその「時」にベルシャツアルの殺害を成就するために主が用いる神の摂理の道具としてイスラムを指し示している。ベルシャツアルは、不用意に開け放たれていた門からひそかに彼の王国に入り込んだ敵によって殺された。ちょうど「大地震」の「時」が近づくにつれて、メキシコとアメリカ合衆国のあいだの国境の壁の門が不用意に開け放たれているのも同様である。

教皇権の致命傷が癒やされることは、ダニエル書11章の最後の六節に示されている。その箇所では、教皇権の致命傷が癒やされる過程で克服される三つの障害が挙げられている。北の王は最高権力へと至る途上で常に三つの障害を征服し、その順序は必ず、第一に敵、第二に同盟者、そして最後に犠牲者である。最初に征服されたのは南の王であり、それはローマの最後の敵を表すソビエト連邦で、1989年に一掃された。第二の障害は「麗しの地」であり、それはローマのためにソ連を打ち破ったローマの同盟者、すなわちアメリカ合衆国を指し、今私たちが取り上げている「時」に征服される。その後の第三の障害はエジプトとして表されており、それは教皇権がその犠牲者である国際連合を掌握する時を表している。

1989年にそれらの聖句の封印が解かれ、その後それらの聖句に関する知識が増し加わる中で、異教ローマ、教皇ローマ、そして現代のローマ（ダニエル書11章の最後の六節において北の王として表される）は、それぞれが王国として確立される前に三つの地理的障害を克服する必要があったことが明らかになった。異教ローマの場合、その三つの障害は三つの方角として表されていた。

そのうちの一つから小さな角が現れ、南と東、そして麗しい地に向かって、きわめて大きくなった。ダニエル書 8:9.

教皇ローマにとって、それらは抜き取られるべき三本の角であった。

私はその角に目を向けていたが、見よ、それらの間から別の小さな角が一本生えてきた。その前に、もとの角のうち三本が根こそぎに引き抜かれた。さらに見よ、その角には人の目のような目があり、大いなることを語る口があった。ダニエル書 7:8

ダニエル書11章の最後の6節において北の王として表されている現代のローマにとって、三つの障害は南の王、麗しい地、そしてエジプトであった。異教ローマと教皇ローマの場

合と同様に、その三つの障害は地理的な障害を表していた。ダニエル書11章の最後の6節で北の王として表されている現代のローマは、三つの「壁」を克服する必要があり、第一の壁については、文字通りの壁が取り除かれたのと同時に、思想的な「壁」も取り除かれた。1989年、北の王がソ連（南の王）を打倒したとき、ベルリンの壁が撤去されるのと同時に、「鉄のカーテン」という思想的な「壁」も取り払われた。

ベルシャザルの審判の「時」、壁に書かれた文字が現れ、彼の敵が見張りのない門から密かに侵入しているとき、政教分離という哲学的な「壁」は取り払われる一方で、第三の災いのイスラム教は、栄光の地の南の国境にある見張りのない「壁」から密かに入り込んできている。

「国際連合」を表す「エジプト」が征服され、すべての国がツロの淫婦に主導される世界統一政府の受け入れを強いられ、思想的な「国家主権の壁」が取り払われるとき、終末の戒厳令と専制をもたらす金融崩壊が起こる。「ウォール街」と呼ばれる通りで何かが起こる可能性は十分にある。

今、神の御業のためにわずかしか投じられず、利己的に手元にため込まれているその資金は、やがて、すべての偶像とともに、もぐらとこうもりに投げ捨てられるだろう。永遠の光景の現実が人の感覚に開かれるとき、金銭の価値は、まもなく、きわめて急激に下落する。『福祉の働き』266頁。

ベルシャザルに関する研究は次の記事で続けます。

今日、エリヤの時代と同様に、神の戒めを守る民と偽りの神々を礼拝する者たちとの間の境界線は明確に引かれている。エリヤは叫んだ。「いつまでどっちつかずでよろめいているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神なら、彼に従え。」列王記上 18:21。そして今日のメッセージはこうである。「大いなるバビロンは倒れた、倒れた……わたしの民よ、彼女から出て来なさい。彼女の罪にあずからず、彼女の災いを受けないためである。彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を覚えておられる。」黙示録 18:2、4、5。

「すべての魂に試練が訪れる時は遠くない。偽りの安息日の遵守が私たちに強要されるだろう。争いは、神の戒めと人の戒めとの間で起こる。世の要求に一歩一歩譲歩し、世俗の慣習に同調してきた者たちは、そのとき、嘲りや侮辱、投獄の脅し、そして死に身をさらすよりも、時の権力に屈するだろう。その時、金は不純物から選り分けられる。真の敬虔は、その見かけや虚飾と明らかに区別される。私たちがその輝きに感嘆してきた多くの星は、そのとき、闇の中に消え去るだろう。聖所の飾りをまとったかのように装いながら、キリストの義をまもっていない者たちは、そのとき、自らの裸の恥をさらすことになる。」『預言者と王』187、188。